

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①校内研究授業や生徒からの授業評価の振り返りを全体に返せる場面を設定し、毎時間の授業を充実させる。 ②ICT活用など様々な手法で、主体的・対話的で深い学びをつくる授業を展開し、相互理解につながる授業にしていく。 ③自身の学びを振り返り自己調整力を育めるよう学習相談等を実施し、個に応じた支援を充実させる。
担当	学習指導部(教科主任会・GIGA推進委)

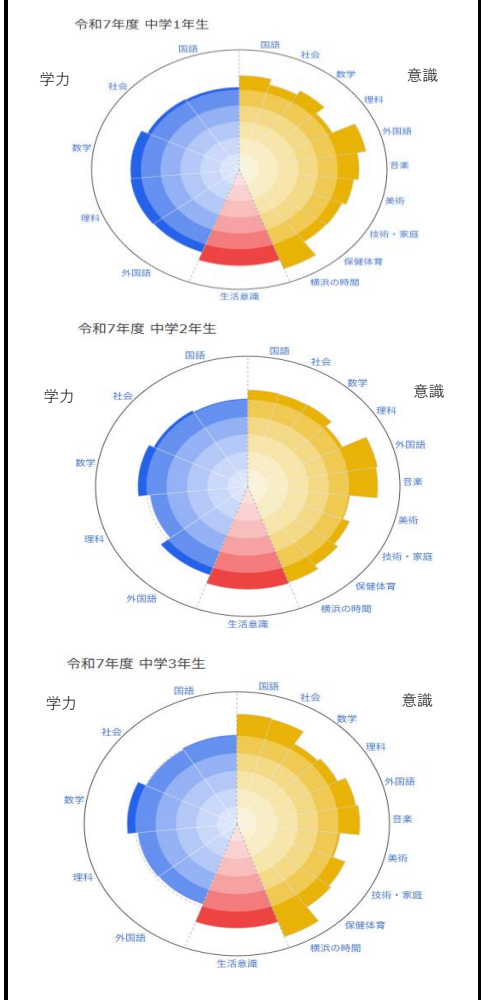
学力向上に関わる本校の状況

(1) 学力に関わる児童生徒の実態
 昨年の学力・学習状況調査では、国語・数学・理科のいずれにおいても全国平均・県平均と概ね同水準であり、基礎的な学力は一定程度定着していることが伺えた。教科間の大きな偏りもなく、学校全体として安定した学習成果を維持している点は、本校教育活動の成果といえる。

授業では、話し合いや対話を通して考えを深める学習に積極的に取り組む生徒が多く、主体的・対話的で深い学びが一定程度実現していることが明らかとなった。また、ICTの活用や協働的な学習態度、向社会的の高さなど、今後の学力向上を支える基盤は整っている。

一方で、国語における表現力や、数学・理科における思考過程を説明する力に課題が見られる。学習内容を理解していても、それを言語化し、根拠をもって説明する力が十分でない生徒が一定数存在する。また、家庭学習時間や読書習慣が平均を下回っており、学びの量と継続性にも課題がある。

今後は、全教科において「考えを書く・説明する」活動を計画的に位置付け、学びの振り返りを通して学習の定着と深化を図る必要がある。あわせて、家庭学習の習慣化や相談しやすい校内環境の整備を進め、学校・家庭が連携した取組により、生徒一人一人の学力を着実に伸ばす学校経営を推進していく。



今年度の目標

ICT活用や生徒の振り返りを通して、主体的・対話的な言語活動を積極的に取り入れ、発表力やコミュニケーション能力、表現力を養う。

目標を実現するための具体的行動プラン

時期	内容
上半期	<p>国語 生徒の振り返りを通して、個々に身に付けたい資質・能力を踏まえながら学習の見直しを立てたり振り返ったりする。</p> <p>社会 基礎・基本を徹底するために小テストなどを行い、知識理解の徹底を図る共に、思考判断の能力を高めるために、「なぜ」「どうして」を問いかけ、文章にして、自分の言葉として書かせるようにする。</p> <p>数学 単元評価カードを通して、個々に身に付けたい資質・能力を踏まえながら自身の課題を見つけることを習慣化して、学習の見直しを立てたり振り返ったりする。</p> <p>理科 学習課題を明確にし、日々の授業や観察・実験に見直しをもつて取り組めるようにする。既習事項の確認や事後の振り返りを通して、自身の課題を認識し、個々に身に付けたい資質・能力を踏まえながらその後の学習に取り組み、自然科学の探求に必要な知識や技能を身に付けていけるようにする。</p> <p>音楽 器楽取組カードや振り返りカードを通して個々の力を伸ばしながら、音楽活動を楽しみ、音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。</p> <p>美術 平面作品の表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせながら、社会の中の美術や美術文化に関わる豊かな資質・能力を育成する。</p> <p>保健体育 体育的活動を通して、積極的に運動に親しむ習慣を身に付け、心身の健康や体力の維持、増進に自ら取り組む姿勢を育む。</p> <p>技術・家庭科 実践的・体験的な活動を通して基本的な知識と技能を身に付けられるような授業展開を行う。作品の中で、生活の課題を解決できるように工夫しながら製作ができるように指導を行う。作業後には振り返りを行い、改善点をみつけ技術を評価する力を養う。</p> <p>外国語 グループワークやスピーチ、またコミュニケーションテスト、そしてアクティビティーを通して、互いの立場や考えを尊重しながら、英語を通して「伝え合う力」を高める。</p> <p>道徳 友だちと意見交換をしたり道徳授業を受ける中で、自らを振り返り、よりよい生き方について考える。</p> <p>特活 学級活動、生徒会活動を通じて、人とのかかわりの中で、自らを振り返り、集団や自己の生活上の課題の解決について考える。</p> <p>総合 探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を協働して行うことを通して、これからの社会を主体的、創造的に生きる資質・能力を高める。</p> <p>個別支援学級 個の特性や能力に応じて少人数のグループ別学習を実施する。また集団の中で他者との関わり方、コミュニケーションの方法を学ぶ。</p>
下半期	<p>国語 グループワークを通して、互いの立場や考えを尊重しながら言葉で「伝え合う力」を高める。</p> <p>社会 グループワークを通して、互いの立場や考えを尊重しながら言葉で「伝え合う力」を高めるとともに、プレゼンテーションを行うことで表現の能力を高めるようにする。</p> <p>数学 グループワークを通して、互いの立場や考えを尊重しながら言葉で「伝え合う力」を高めるとともに、数学的に説明できる表現や能力を高めるようにする。</p> <p>理科 前期での取組を継続しつつ、自分の考えを伝えたり、他者の意見を踏まえてさらに考えを深めたりするようなグループワーク等を通して、科学的に考え表現する能力を育成する。</p> <p>音楽 お互いの演奏を聴き合ったり演奏について話し合う活動を通して、曲想と音楽の構造や背景などとの関わりや多様性について理解し、創意工夫を生かした音楽表現ができるようになる。</p> <p>美術 作品の表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせながら、社会の中の美術や美術文化に関わる豊かな資質・能力を育成する。</p> <p>保健体育 新体力テストの結果を基に改善に自ら取り組む姿勢をつくり、継続的に実践していけるようにする。</p> <p>技術・家庭科 前期で身に付けた基本的な知識・技能を活用し、前期の学びを活かした製作を行う。生活の中で利用されている技能について持続可能な社会の構築に向けて、様々な視点から評価する能力を育成できるように、身近な技術に触れながら授業を行う。</p> <p>外国語 各単元ごとの振り返りシートを通して、コミュニケーション活動に自ら取り組む姿勢を高くし、</p> <p>道徳 スピーチや人権作文の取組を通して友だちの考えを知る中で自らの考えを深め、よりよい生き方を追求する姿勢を育てる。</p> <p>特活 学級活動、生徒会活動を通じて、人とのかかわりの中で、自らを振り返り、豊かな人間性を育み、集団や自己の生活上の課題を解決しようとする姿勢を育てる。</p> <p>総合 平和学習・防災学習や秋葉祭、各学年のキャリア教育の活動を通じて、自らを振り返り、社会を主体的、創造的に生きる姿勢を育てる。</p> <p>個別支援学級 個の特性や能力に応じて少人数のグループ別学習を実施する。また集団の中で他者との関わり方、コミュニケーションの方法を学ぶ。</p>